がら、食べるものは米選機の下ばかりだ。政府の統計を見ても小作農民の経済は赤字だ。

我々は食へぬから小作料を負けろと食る迄減免させなければならぬ。小作料減免斗争をやってゆくのには、いろいろな戦術かとらなければならぬ。地主もいろ〳〵と戦術を研究してゐる。したがって我々の戦術も復雑に、社会的・政治的なものになって来なければ駄目だ。例へば減免斗争を税金斗争や検査反対斗争に結び付けるとか、更に又行き方を変へて奨励米の増加を要求するとか色々の方法が取られる。

更に此の場合最も必要なのは、戦線の統一である。最近の地主は殆んど地主組合を結成し、お互に連絡をとって強力になってゐる。之に対するのにたゞ一又部丈が孤立してポカンと争議をやったのでは、その結果は非常な苦境に立たざるを得なくなる。（例へば西大寺争議を見よ！）此の場合に我々の斗争は大地主別斗争へ進まなければならないが更に要求等について全縣的に統一があれば力はぐつと強力になってくる譯だ。

こうした全戦線がそろって進出する場合にはそれ丈社会的政治的な圧力も強くなり、本当に又配階級をフルへ上らして、我々の要求を貫徹することが出来るのである。こう言ふ立場から見て、本年度の如き奨励米増額要求への大体の統一の如き、戦術上の一つの進歩である。

此の方針を貫ぬくためには、勿論又部支部によって情勢や條件は違ってゐる。だがそんなことばかりにこだわってゐては駄目だ。色々の情勢は我々に、そこまでゆかなければ争議に充分の勝利を得られない様にしてゐるのだ。而も争議を離れても、我々には統一ある運動が必要になってゐるのだ。

実行方法、

其の為の統一ある方針を又部代表者会議、或は拡大執行委員会等で決定されるのだがこれに基いて小作人大会・地主組合・大地主別斗争・地区大会・農民大会・等々の形態へ発展さしてゆく。

このために、争議戦術研究会・又部の総会などへ他又部からも代表を送る事をして日頃から連絡を取って置く。

第三号議案 奨励米俵五升増額運動に関する件

執行委員会提出

主文・穀物検査のシエン厳により生産奨励米の俵五升増額を地主に要求して戦ふ。

理由・穀物検査は年々厳重になった。目方は重くなるし、乾燥や俵装はきびしくなるし、殆んど不可能に近い様な苛酷さだ。此のためには勿論岡山産米の聲價は上ってゐる。だがそれで一番利益をするのが、この声價の上った米を受取った地主だ。

我々はこの検査のために言ひしれぬ苦痛をなめて、立派な米を小作米とし